

5月7日午前11時より、OCCビル416号室に於いて2012年度（第17回）同窓会総会が開催されました。出席者は世良田学院長、藤原副学院長、事務局を退職された宮本姉妹と同窓生25名でした。なお、福井教務主任は教団の御用のため欠席されました。

1部の総会は、3期の有田師の司会で進められ、終了後、休憩を挟んで2部の愛餐会に入りました。13期の中島兄の司会で、出席者の近況報告と研究科の報告、後援会からのお知らせと和やかな雰囲気の中、スムーズに進行、予定通り午後2時に終了いたしました。決算と予算の会計報告は下記の通りです。

2011年度 OBI 同窓会 会計報告

収支	項目	予算	実績	差額
収入	前年度繰越金	197,539	197,539	0
	維持費金	140,000	111,000	-29,000
	感謝金	120,000	199,500	79,500
	同窓会活動費	50,000	33,500	-16,500
	雑費金	0	50,000	50,000
	雑収入	0	7	7
	収入合計	507,539	591,546	84,007

支出	事務費	30,000	14,156	-15,844
	通信費	70,000	51,480	-18,520
	同窓会活動費	250,000	163,957	-86,043
	雑費	0	50,000	50,000
	OBI維持費金	100,000	0	-100,000
	予備費	57,539	0	-57,539
	支出合計	507,539	279,593	-227,946
	次年度繰越金		311,953	

献金者 献金金受取時、献金日順記載（2011.4.1～2012.3.31）
飯島多摩子、米田由起子、田中恵子、中島總一郎、三浦喜代子、中島昭治、吉村昭子、福井おと、戸川徹生、中島昭治、芳賀功、森本雅、藤田淳子、田中恵子、三友雄子、上田由美子、横田幸子、伊藤森子、森井あずさ、須崎一、長橋晴子、増尾節文、増尾純子、渡月弘子、内田光子、有田良一、有田和子、阿部幸平、池田未知、小宮明子、西口良久、堀口淳子、杉山礼子、長岡恵子、中村良子、木下順子、坂田光正、高橋一孝、國松知子、飯田和子、永井みよ子、鈴木まさみ、佐藤敬、石塚幸子、日名富子

複数回、献金を贈ってくださいました見舞がられます。以上献金者 45名、69件

また、東日本大震災義援金のご協力ありがとうございました。

「東日本大震災義援金やリレー運動会」に合わせ、91,540円を寄付しました。

会計監査報告 上記の結果、会計監査を行いました。記載内容は間違いなく示していることを認めます。

2012年4月13日 会計監査 戸川 偕生

2012年度 OBI 同窓会 会計予算案

収支	項目	前年度予算	前年度実績	今年度予算
収入	前年度繰越金	197,539	197,539	311,953
	維持費金	140,000	111,000	120,000
	感謝金	120,000	199,500	160,000
	同窓会活動費	50,000	33,500	50,000
	雑費金	0	50,000	0
	雑収入	0	7	0
	収入合計	507,539	591,546	661,953

支出	事務費	30,000	14,156	20,000
	通信費	70,000	51,480	60,000
	同窓会活動費	250,000	163,957	180,000
	雑費	0	50,000	0
	OBI維持費金	100,000	0	200,000
	佐野路 印刷代	0	0	160,000
	予備費	57,539	0	41,953
	支出合計	507,539	279,593	661,953
	次年度繰越金		311,953	

会計報告 1年間の主のお恵みを感じました。皆さまのご協力のおかげで、同窓会も維持されました。後援会からいただいた見舞も、ありがとうございました。また、皆さまのご協力により、東日本大震災のための義援金に、ご協力いただきましたありがとうございます。このように感謝いたします。皆さま、おひとりおひとりに主からの祝福が豊かになりますように、主にありて。

2012年4月13日 会計 米田由起子

米田由起子

計 報

10期の長橋晴子姉妹は6月23日午後、入院中の都立多摩総合医療センターにて原因不明の脳の病のため召天されました。長橋姉妹は昨年5月、日本基督教団日野原記念上尾栄光教会の主任担任教師に就任されたばかりでした。神様の御旨は、今は分かりませんがやがて表される御栄光を信じて、ご遺族と教会の上に主の慰めとお導きがありましようお祈りいたします。

編 集 後 記

主の御名を賛美いたします。

同窓会ニュースレター33号をお届けいたします。今号は、5月7日に開かれました同窓会総会での個人の近況報告のおあかしの中から田中恵子姉妹と福井ちよ姉妹にお願いしてニュースレターのために寄稿していただきました。

また、総会ではOBIの厳しい財政状況の報告もありました。

同窓会の皆様もこのために祈り、協力を頂きたいとの思いから、中島總一郎理事と三浦喜代子後援会会長にぐわしい内容を書いていただきました。愛する学び舎のために祈り下さい。

嬉しいニュースもありました。

福井誠教務主任が博士号を取られたことです。ささやかですが、同窓会としてお祝いを差し上げました。

お忙しい中での学びでしたので、感慨深いものであると思います。そのことについて報告記事を書いていただきました。

節電が求められている夏です。皆様ご自愛下さい。

主のお恵みがありますように。

〈戸川〉

OBI 同窓会 NEWS Letter

お茶の水聖書学院同窓会

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-1 OCCビル2F

TEL.03-3296-1005 FAX.03-3296-4641 発行者 世良田 湧侍 編集者 戸川 偕生

2012年
7月発行
No. 33

一つ心を合わせよう

理事・講師 中島總一郎

2012年度OBIに新生が15名与えられたことは喜ばしいことである。だが、もう一つの現実卒業同窓生は目を向けなければならない。それは、OBIの経済的危機という現実である。会計方式の変換ということも原因しているが、2011年度OBIは200万円近い赤字となってしまった。これに加え、2012年度はさらに飯島食品科学振興財団からの献金300万円が打ち切られる。長年のご支援に感謝すると共に、私たちなりの対処をしなければならない。多くの面で支出の切り詰めが必要であり、OBIの収入増を図らなければならない。主イエスの復活に出会った人々は500名を越えていた（Iコリント十五5-7）。

「甦った者が話してくれれば、信じる」と多くの人々は言う（ルカ十六30）。しかし甦った主に会っていないながら、「エルサレムを離れないで待て」（使徒一4）との主の言葉を信じて待った人々は、その約1/5の120名ほどであった（使徒一15）。このような信仰深い選ばれた人々であっても、「主よ、イスラエルのために復興なさるのは、この時なのですか」（使徒一6）というような外的な質問をする。

ところが、このような心もとない人々が、あることを境に大胆に立ち上がり、大宣教命令に従うようになった（使徒二14）。この変化は何によるものであろうか。何が彼らの人物をこのようにまで変えたのであろうか。その理由は二つある。人の側がすることと、神の側がなさることである。人の側のしたことは、一とところに集まり、待つ「共に、心を合わせて、ひたすら祈った」（使徒一14,15、二1）ことである。神の側がして下さったことは、この祈りに応えて、約束どおりに聖霊を下して下さったことである（使徒二2-3）。

一つ心になって祈る祈りには、神は応えて下さるばかりでなく、ここから教会が始まり、今日、地球の裏側の私たちにまで福音は届くようになった。

心を合わせて一つ思いになって祈ることには、力がある。天の父が必ず働いて下さる。OBIの危機も同窓生が同じ一つの思いになって祈るならば、神は最善の道へと導いてくださることを確信する。

「聖霊による一致を守り続けるように努めなさい。……あなたがたが召されたのは、一つの望みを目ざして召されたのと同様である」（エペ四3,4）。OBIの経済的危機を打開していくために、卒業生一同が一つ思いになって、祈っていかうではありませんか。



OBI の現況と展望《同窓生は OBI のタラント》

後援会会長 三浦喜代子

主の聖名を賛美します

創立 20 周年と学院の創始者増田誉雄先生が天に凱旋された 2010 年から、早や一年半が過ぎました。

学院は現在も主の確かなご計画のもとに、託された働きを進めています。建学以来少しも変らないものの一つは、学院生の燃え立つ学習意欲です。私は 20 年に渡ってこのまぶしい光景を拝見し続け、感謝しながら主をほめたたえています。

しかし、変わって行く事柄もあります。世界や日本の社会情勢、また、キリスト教界の諸事情が大きく変わりました。その原因は加速する少子高齢化や長引く経済不況に加えて、東日本大震災と原発事故があるでしょう。OBI も影響を受けないわけがありません。それは学生数と支援献金の減少に顕著に現れています。加えて、私たちを、骨

身を削るようにして教育してくださった先生方が次々に引退されています。OBI は、これらの重要課題に早急に取り組む時ではないかと痛感します。

OBI には二つのかけがえのない宝があります。恩師増田先生という比類なき遺産と 180 余名の同窓生です。同窓生は毎年必ず増加していきます。OBI の働きを継続発展させるために、私たち同窓生は、神様から預かっているタラントを今まで以上に活用しなければならないと、強く思い、願い、祈らずにはいられません。ともに愛する母校の、今日のため、明日のために心を砕こうではありませんか。

『あなた方のからだを、聖い、……生きた供え物としてささげなさい』(ローマ 12・1)

2012 年度サマースクーリング報告

2012 年度 OBI サマースクーリングは 7 月 3 日～5 日、埼玉県比企郡嵐山町の国立女性教育会館を会場にして持たれました。

講師の黒木安信先生（ウエスレアン・ホーリネス教団浅草橋教会牧師、同神学院院長）から「恵みと知識において成長する」を主題に、アブラハム、イサク、ヤコブ、ヨセフの信仰を通して、5 回にわたり講義を受けました。各回とも霊的に恵まれる感謝な講義でした。参加者は 28 名でした。



学びを終えて

教務主任 福井誠

足掛け 5 年の学びとなりましたが、今年 6 月、無事ベテル神学校大学院を卒業することができました。そして牧会学博士の学位を授与していただきました。皆さんの陰なる祈りと励ましがあってこそ、やり遂げられたことと思い、感謝しております。

専攻はグローバル&コンテクスチュアル・リーダーシップ（世界的、文脈的なリーダーシップ）をテーマとするコースで、平たく言えば世界的に物事を考え地域的に行動する指導者を育成するためのコースになります。そこで、世界的な感覚でリーダーシップの問題を考えるために、冬はヨルダン、インド、マレーシアに飛び、キリスト教界のみならず企業や NGO のトップリーダーの方々の集中講義を受け、夏は米国のセントポールの神学校で、リサーチ研究法や、論文の書き進め方などの指導を受けました。また集中講義の前に、必ず 3 か月ほど期間が定められ、毎回、10 冊以上の指定図書を読んでレポートを提出することが義務付けられ、英語に不慣れな私にとっては大変な思いをしながら、なんとか乗り越えた次第です。御茶ノ水と自宅を往復する隙間時間をかき集めながら文献を読み、アイデアを余白にメモし、帰宅してからレポートを作成、提出する毎日でした。

最終学年の 4 年と 5 年は、博士論文に集中いたしました。テーマは、日本の神学校教育のこれからの在り方で、インタビューやアンケート調査の結果をもとに、日本の教会のニーズや神学校の現状に合わせて、どのようなカリキュラム改革が現実的であるかをまとめています。また、最近牧師の実践的な継続教育への関心が高まっていますが、現在日本に輸入翻訳されている教会形成論が、いかなるリーダーシップ理論を背景として、本来

どういふものが輸入あるいは深められるべきかを、聖書的な原則とこれまでのリーダーシップ研究の流れを踏まえて論じています。

ともあれ、さすがに 5 年は長く、その間、自ら体調を崩したり、父親の介護で毎週二回山形に帰省する時もあったりで、本当に学びの継続に難しさを感じた時期もありました。それでも、世良田学院長、藤原副学院長には本当に愛の見守りと励ましをいただきましたし、同窓会の皆さんにも何かと祈りと励ましをいただき、学びを終えることができました。このことに、心から感謝を述べたく思っております。

卒業式前夜、卒業聖餐式の壇上にて、指導教授のウィルバー博士にしっかりと抱きしめられながら、耳元で「あなたとともに神がいる。未知の旅に踏み出す勇気を持て」とささやかれたことを思い出します。お茶の水聖書学院の教師の一人として、この学び舎で学び育てられていく一人一人に、同じ言葉を語る事ができる者として整えられたく思っております。



五月晴れの朝、今日は11時から同窓会なので9時半に家を出た。しかし、お茶ノ水駅に着いたのは10時55分。学院生だった時と同様、地下鉄の階段を駆け上がり、歩道をダッシュして、OCCビルの2階に到着。「間に合った」と思ったが誰もいない。閉まりかけたエレベーターに飛び乗り9階で降り、下の階へと捜し歩くうちに、素晴らしい賛美の歌声が聞こえてきた。階段がコンサートホールのようになり、4階から響き渡ってくるのは、お茶の水聖書学院同窓生の力強い歌声である。その賛美に導かれて会場に入る。第一部総会では世良田学院長より第一コリント12章4～11から（さて、御霊の賜物にはいろいろの種類がありますが、御霊は同じ御霊です。奉仕にはいろいろの種類がありますが、神はすべての人の中ですべての働きをなさる同じ神です。しかし、皆の益となるために、おのおのに御霊の現われが与えられているのです。以下略～）各自に与えられた賜物を発見すること。その賜物を訓練していくこと。その結果、傲慢に陥らぬよう、常にイエス様の謙遜に習っていくこと。などを奨励していただいた。第二部愛餐会ではおいしいお弁当をいただいた後、参加された兄弟姉妹方の近況報告を伺う。大切な家族をなくされた方、震災にあわれた方、親の介護を続けておられる方、牧会者となっておられる方、お仕事や奉仕活動に多忙な方、退院されて間もない方と皆さんがそれぞれに置かれている状況は、厳しいものであるのに、私の心に浮かぶこの懐かしい安らぎはどこからくるのだろうか？そう思っているうちに私の番がきてしまった。

私は、「昨年、信徒執事を受けた時に示された

聖書箇所が、コロサイ3章14（そして、これらすべての上に、愛を着けなさい。愛は結びの帯として完全なものです）だったこと、故増田先生がいらっしゃった時と同じように、今この場で、平安と慰めを感じていること」などを話しながら、救われて間もなかった私にとって、ここが無条件に受け入れてもらったイエス様の「初めの愛」の場所だったことを思い出した。当時の私は、自分の苦しみだけでいっぱいだった。しかし、無我夢中で学んだ聖書のみ言葉や先生方を通して注がれていた「イエス様の愛」が、今再び感じている懐かしさであり、揺るぎない平安の源であること。そして、これがお茶の水聖書学院の特色となっていることに気づいた。近況報告を受けて、学院長が困難の中にいる私たちに、「イエス様がこの世に勝っておられるように、たとえ人には負けても、イエス様に習ってこの世に勝利して生きよう」と励ましてくださった。賛美と祈りのうちに閉会となり、皆さんと名残を惜しみつつ別れた。



母の洗礼

9期 田中恵子

母 荒瀬初音は、大正14年8月7日4人兄弟の長女として東京大井町で誕生しました。母の叔父はクリスチャンでした。

3歳の時、アメリカ人宣教師ハナフォード師ご夫妻により叔父の家で日曜学校が開かれ、祖母は奏楽の奉仕をしていました。その時覚えた「主我を愛す」は、母の好きな讃美歌の一つです。クリスマス近くになると、母は叔父に連れられて、「信ずる者はたれもみな救われん・・・」と、歌いながら街中を歩きました。小学校を借りて開かれたクリスマス会は50人程の子供達が集まり、門の前で撮った写真は大切に残されています。

終戦後、夫人から頂いたパンプスは、「妻としてではなく、幼い義弟たちの母親代わり」として高崎に嫁いだ母の支えであり、又、大切な宝物でした。母は、日曜学校の楽しさを私と妹にも伝えようと、父の反対を押してキリスト教の幼稚園に入園させました。

父が家電販売店を開いてからは忙しい毎日を送り、ご夫妻のことは時々聞かされていました。

1991年私の受洗後、母の信仰への炎は燃え始めました。教会の行事・特に敬老祝会は母の楽しみでした。新礼拝堂に入った時でした。「あ、このブルー！」と、十字架中央の色を指さして叫びました。心臓のカテーテル手術をした時、苦しさの中祈ると暗闇が美しいブルーに変わり、母は平安を頂いたとのことでした。「イエス様は本当に生きている」と確信した時でした。

父召天の時は、嫁としてお寺に納骨をお願いし、自分は受洗することを望みました。すでにレビー小体型認知症を患っていた母は、一人で頑張ろうとしましたが現実には厳しいものでした。

2010年9月7日 施設での信仰告白後病状も進

んでいきましたが、神様は憐れみをもって洗礼の道を開いて下さいました。

2011年12月25日早朝、母は転倒し左骨盤が縦に割れるという大怪我をしました。ショック死をおこしても不思議ではない病状でした。骨折の痛みの中、母は自分を励ますように「主我を愛す」を賛美し続けました。しかし、2012年1月14日未明、危篤になりICUに入りました。皆で賛美する「主我を愛す」で目をあけ、一緒に賛美し「...この讃美歌は、今でも耳に張り付いています」と証しをして洗礼の恵みに与ることができました。神様の不思議なみわざに言葉もなく、ただ主を崇めました。その後も厳しい状況の中にいますが、主の御手の中で奇跡的に守られています。

宣教師ご夫妻によって東京で蒔かれた福音の種は、83年という長い年月大切に育まれ、群馬の地で実を結びました。その種は、又、母を通し埼玉の地にも広がっています。神様の壮大なご計画の一端を目の当たりに見させて頂いています。

母の好きな聖句「わたしは、決してあなたを離れず、また、あなたを捨てない。」(ヘブル13:8)は真実であり、歌の好きな母に相応しく讃美歌を通して母の魂をとらえ続けて下さった主のご愛に感謝すると共に、母を覚えお祈り下さったOBIの先生、兄弟姉妹方にも感謝申しあげます。